

釈迦ヶ岳(高原山)道迷い(2016年3月)

残雪期の単独。地図アプリのスマホを落とし、頂上からの下山で道迷い。梯子が出てきたため道迷いと判断。登り返し、来た道に戻るも地図アプリがないため不安の中無事下山した。



解説

道迷いの典型的なパターンの要素がいくつもある事案です。

①単独、②残雪期、③朝寝坊をして出発が遅れる、④事前情報と違い道が途中で冬季閉鎖、⑤山頂まで行くと日没までには帰ってこれないコースタイムのため、「途中まで行こう」と登山を開始するが、山頂まで行ってしまった、⑥スマホに入れた地図アプリを頼りに進むが頂上からの下山直後、胸ポケットに入れていたスマホが落下し崖下へ紛失、⑦下山道の道の分岐で間違える、⑧マイナーな山域のため人とはほとんど会わない、⑨紙地図を持っていない、⑩ヘッドランプ、ビバーク用品を持っていない、⑪日没を気にして焦る

どうでしょう？。道迷いをするパターンの一つ一つの要素は、難しい問題はありませんね。一番難しいことは、

「当たり前のことを当たり前のように行動する！」
ことだと思います。